

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館 山ユニット		
所在地	登別市若山町3丁目8-45		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvovsoCd=0173501156-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活機能の維持、向上を目的とし認知症の原因疾患に合わせ個別援助が徹底されている。
その為の認知症に関わる全ての分野に対しての勉強会、研修を受け自己研鑽を怠らず日々の支援に繋げている。
介護の原則についてもより良い介護支援の為の勉強会も常にユニットで行われている。
個別援助計画も職員全員が作成出来るよう努力している。
仕事をしながら勉強出来る環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

登別市内の住宅地にある2ユニットのグループホームである。大きな道路に面し、スーパーマーケットやホームセンター、バス停などが近く便利な場所にある。玄関、事務所を中心に両側に2階建の各ユニットがあり、共用空間は2階まで吹き抜けて、台所で食事の準備をする様子を2階の廊下から眺められる。家庭的な家具や、季節の飾り、写真、掛け軸などを設置している。両ユニットが廊下でつながっているため、互いの行き来がしやすい。家族との関係は、情報交換を密にし、来訪時や電話をした際の家族の様子や得られた意見を「ご家族情報シート」に記載してサービス向上に活かしている。ケアマネジメントの面では、利用者の思いや意向、暮らし方の希望を把握し、利用者の状態に合わせた詳細な介護計画を作成している。また、介護目標を意識した記録の作成がなされている。受診や看取りについては、利用者や家族の意向を尊重した支援ができる体制を築いている。食事の面では、調理や盛り付け、後片付けに利用者に参加し、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、個別の外食も実施している。入浴支援では、利用者の希望に合わせた時間帯や回数のお湯交換ができて、入浴剤の使用や毎回のお湯交換により気持ちよく入浴している。家庭的な環境と行き届いたサービスのもと、快適に過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えてい (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い作成した理念をカードにして携帯する事で共有している。日頃ケアをする際、ケアプランを作成する際、理念に沿っているか意識しながらケアを行っている。	法人理念とケア理念があり、ケア理念の中の「人との繋がりを大切に」という文言に地域密着の意味を込めている。理念を玄関と事務所に掲示し、職員は法人理念、ケア理念を携帯して理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方に会ったら挨拶を交わしている。救急救命講習を開催した際、町内会の方も数名ではあるが参加して頂いた。コロナが5類になり町内会の行事も開催される様になってきているが数は少ない。盆踊りに参加する予定だったが雨天で中止になり参加できず。	感染症対策のため住民との交流は減っているが、今後は感染状況を見ながら、地域の夏祭りや盆踊り、新年会に参加する意向である。また、ボランティアや幼稚園、小学校との交流も検討を進める方針としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	登別市で行っている徘徊模擬訓練に総合施設長が徘徊者役で参加し、認知症の方をリアルに表現した。参加された方へ認知症の方への声の掛け方など伝えるができた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になった事から、今年度から、対面での運営推進会議を再開した。数は少ないがご家族が参加される事もある。ご家族からの発言は少ない傾向にある。ご家族の参加者を増やし発言しやすい環境を作れるかが課題である。	会議を年6回開催し、市、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者家族の参加を得て、防災や事故防止、虐待防止、看取りの方針などをテーマに話し合っている。一方、現在は議事録を参加できなかった家族に送付していない。	参加できなかった家族にも議事録を送付するとともに、運営全般やテーマに関する意見をできるだけ収集して会議に反映することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段はメールや電話で連絡を行っている。運営推進会議を利用して、対面で事業報告やケアサービスの取り組みを担当者へ伝えていく。徘徊模擬訓練の徘徊者役を総合施設長が行い協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を受けている。何かあればいつでも相談できる関係を築いている。代表者が、市のSOSネットワーク事業の模擬訓練に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会を設置している。会議を通じて勉強会を行い、身体拘束をしないケアの理解、ケアの実現に努めている。	身体拘束を行っておらず、年2回の勉強会と身体拘束に関する内容を盛り込んだ身体拘束および権利擁護委員会を必要回数開催しているが、身体拘束委員会としての記録の整備が十分といえない。玄関は日中施錠せず、利用者がユニットや玄関から出る場合はチャイムが鳴り、分かるようにしている。	身体拘束委員会としての議事録を整備することを期待したい。議事録には身体拘束やグレーゾーンの有無、現状の課題や対応状況、今後の方針など必要に応じて具体的に示し、職員間で共有することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会を設置している。会議を通じて勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナが5類になった事から、今年度から外部の研修への参加を再開した。2月に外部で開催される成年後見制度の研修があり、管理者と職員が参加する予定になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明が出来るよう時間設定を行い、項目に沿って、例を用いながら説明を行いご家族の理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、アウルに来所時や電話報告時などで意見交換を行っており、会議などでその意見が運営に反映できるように努めている。	家族の来訪時や電話をした際の家族の様子や得られた意見を「ご家族情報シート」に記載し、共有している。毎月、利用者の写真を載せたアウル通信に個別のコメントを添えて家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談など、職員が意見や提案を伝える機会がある。さらには代表者や管理者が出社している時は常時意見を伝えられる環境にある。	毎月の全体会議などで活発に意見交換している。年1～2回、管理者や代表者と職員が個人面談を行っている。職員は、物品管理や防災用品の管理、車両、献立作成、検食など役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が定期的に管理者や職員の働く様子を実際に見たり、管理者からの報告、書類により勤務状況を把握している。各自に合った働き方を提案したり、現在、労働環境、給与の見直しを行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力に合わせた法人外の研修への参加の機会を提供している。法人内でも高齢者の権利擁護の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は行えていないが、他事業所からの見学、訪問を受け入れ交流する場を設けている。法人内の他事業所の職員の訪問、意見を交わす場を設けサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で、本人から事前にお話を聞き、思いに沿える様に答え、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で、ご家族から事前にお話を聞き、思いに沿える様に努めている。また、何でも言ってもらえるよう、信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いで得た情報を基に、何が 필요한かをチーム内で検討して見極め、実践に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者主体の生活を心がけており、入居者と共に生活できるように良好な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が本人との距離が出来ないよう、電話連絡等の際に最近の様子などを報告するなどして、ご家族と共に本人を支えていけるような関係作りにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の流行に留意しながら面会、外出を再開している。ご家族と居室で面会したり、ご自宅や馴染みの場所への外出。電話で話をしたりドライブに行くなど、可能な範囲で支援している。	一部の利用者に友人や知人が来訪している。知人から手紙が来た際は読み聞かせたり、電話は話の内容を分かりやすく伝えることもある。数名は馴染みの美容室に通い、家族や職員と一緒に自宅を見に行ったり、墓参り、外食に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性については概ね把握しており、変化があったら職員間で情報共有している。関係性が良好となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係継続とまではいかないが、退居された後に逝去された方のご家族様へ、施設で生活されていた時のお写真を差し上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の言動や様子をアセスメントし、本人のニーズについて検討を行っている。	3分の2ほどの方は思いや意向を言葉で表現でき、難しい方も表情や過去の話の内容から把握している。趣味や嗜好を載せたセンター方式のB-3シートを両ユニットで作成する意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での情報やライフヒストリー等をまとめた個人チャートをユニットに保管しており、確認したり新人スタッフが把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のアセスメント、職員間での情報共有などから現状の把握について随時行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でのケースカンファレンスや日々の職員間のプチカンファレンス等で状況を把握しながら今後の支援計画に活かしている。ご家族へ受診結果の報告の際、最近の様子を伝え、支援についての意見を伺いながら支援の方向性を決めている。	介護計画を4か月ごとに更新している。毎月のモニタリングをもとにユニット会議で評価を行い、詳細な介護計画を作成している。日々の生活(暮らし)のシートは、目標番号や記号、利用者の様子などを記載し、次の計画見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートにその日の出来事を記入し、職員間との情報共有は常時なされている。また、その情報をユニット会議にて今後の介護計画の見直しに活かしている。急いで周知したい事は、記録だけではなくLINEを使用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は入居者本人主体の生活を心掛けており、ニーズに対して優先的かつ柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスが5類になったが、コロナウィルスの流行で前年度まで自粛していたまま、今年度も行う事が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院はこれまでに利用してきた所を継続している。本人の状態が変わって変更の必要がある場合はご家族の同意を得て行っている。	4割ほどの利用者が協力医療機関の往診を受け、他は事業所または家族が、かかりつけ医への受診を支援している。受診内容を個人ごとの「通院表」に記載して共有している。2週に1回、訪問看護師による健康チェックを受けている。	

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時では、日常の様子を伝えたり、体調に変化が見られた時はいつでも相談が出来る環境にあり、迅速な対応を行える状態にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された場合は、可能であれば面会に行き、早期退院が出来るように病院関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と共に支えていけるように、今後についてのあり方などを医師、家族、職員と話し合う場を設けて支援に取り組んでいる。	利用開始時に「看取りに関する指針」を説明し、同意書に署名捺印を得ている。最近も1名の看取りを行い経験を積むとともに、研修も行っている。看取り支援を開始するにあたって、家族や医師と十分に話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの設置や救命救急講習の受講など、急変や事故に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルの作成や年に2回以上の避難訓練などを通じて非常時に備えているが、地域との協力体制はほとんど築けていない。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署の指導や住民の参加を得て行っている。消防署による救急救命訓練を受講し、災害時に必要な備蓄品も用意している。地震時の対応について、マニュアルを参考に話し合いを行う予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し言葉掛けや関わり等、十分に注意しながら接している。	スピーチロックの研修を行い、人格を尊重した適切な言葉かけをしている。申し送りはイニシャルを使い、利用者から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力を見極めながら、本人が自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体の生活が出来る事をスタッフは心掛けており、柔軟な対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に沿えるよう支援を行っている。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を見極めながら、入居者が主体となって行えるよう意思や意向に配慮しながら支援を行っている。	旬の食材を購入し、当日に献立を考えている。米とぎや野菜を切るなどの準備に利用者も参加している。個別外食でラーメンや寿司などを食べに出かけたり、庭先でバーベキューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の飲食の量を確認しながら、無理強いをせず、飲食出来る時に飲食出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には起床時、就寝時に口腔ケアを行っている。口腔ケアを負担に感じる利用者には徹底せず可能な限りで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントシートに排泄状況を記入し、排泄パターンを確認している。本人の状態に応じながら、可能な場合はトイレで排泄出来るよう自立への支援を行っている。	自立している利用者が多いが、個々の状況に合わせて耳元で声をかけたり遠回りしてトイレに誘導するなど、他の利用者に気付かれないように支援している。タイミングを見て誘導することで、排泄面が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事形態を工夫する等の支援は行っている。それでも難しい場合は医療機関に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決まっておらず、本人が入浴したい時に入浴できるよう、いつでも入れるよう準備している。	毎日入浴が可能で、毎回お湯を交換して各利用者の好きな時間帯で入浴を支援している。毎日入浴したり、仲の良い方と一緒に入る方もいる。見守りでゆっくり入ったり、歌をうたいながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたいと思った時や職員が本人に休息が必要と思われる時など、いつでも休めるように準備や支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントシートと一緒に薬の情報シートをファイリングしており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングには嗜好品となる物が置いてあり、入居者が生活を楽しめるよう工夫している。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行に留意しながら、可能な範囲でドライブへ行ったり、ご家族と協力しながら、ご自宅や外食、お墓参りへ出かけられるように支援している。	近隣のスーパーマーケットや商店に買い物に出かけたり、夏場はウッドデッキや庭先のベンチで日光浴をしている。おにぎりやサンドイッチを持って洞爺湖までドライブしたり、数人で出かける機会を作っている。季節に応じた外出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さを理解した上で、本人がお金の管理が可能であれば、希望に沿って管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などの交流する環境は出来ており、本人の希望に沿って行う事が出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節を感じさせる物を飾ったり、ゆったりと生活出来るように家具の配置を考慮したりと、入居者が生活しやすいよう工夫している。また、五感の刺激が入居者にとって不快なものとならないよう配慮している。	1階の居間と食堂は吹抜けで明るく開放感があり、神棚や家庭的な調度品も多く自宅に居るように落ち着いて過ごせる環境である。居室も1、2階にあり、一般家庭のような造りになっている。壁には利用者と一緒に制作した飾りや雛人形などの季節の装飾がさり気なく施されており、落ち着いた温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で居室で一緒に過ごしたり、囲炉裏や廊下のソファに座りゆっくりと過ごす事が出来るなど、その時の気分に合わせて生活を送る事が出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってくることで、本人が安心して生活することが出来る事をご家族に理解して頂き、馴染みの物を持ってきて下さるよう伝えている。	クローゼットが備え付けられた居室に、テレビや冷蔵庫、使い慣れた鏡台やタンスなどを持ち込んでいる。家族や動物の写真、好きな小物類などを飾りそれぞれの利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が自立した生活を送れるよう、風紀を乱さない程度で印となるような物を設置するなどの工夫を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館 海ユニット		
所在地	登別市若山町3丁目8-45		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活機能の維持、向上を目的とし認知症の原因疾患に合わせ個別援助が徹底されている。
その為の認知症に関わる全ての分野に対しての勉強会、研修を受け自己研鑽を怠らず日々の支援に繋げている。
介護の原則についてもより良い介護支援の為の勉強会も常にユニットで行われている。
個別援助計画も職員全員が作成出来るよう努力している。
仕事をしながら勉強出来る環境である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsyoCd=0173501156-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流の目的や意義等を踏まえた理念となっており、職員全員に理念カードの携帯を義務づけ認識や意識の共有に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民については、コロナウイルスの影響で現在は控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	登別市で行っている徘徊模擬訓練ひ総合施設長が参加し、認知症の人の理解や支援方法を伝えた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に管理者が行い、報告や話し合いの場で意見を聞き、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会で年6回の会議を行い、職員がほぼ毎月行い、理解と認識の向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、権利擁護委員会で年6回の会議を行い、虐待や不適切なケアの防止を図っている。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関しては電話連絡の際に運営や日々の支援に対する意見や感想等の確認を行い、会議にて意見等を基にサービス向上に向けて話し合いが行われている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を提案しやすい環境、聞く機会を設け反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けに行かせていただき、日常的に都度トレーニングできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との接触を避けている為出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々お話しをし困っている事、不安な事要望等を伝えて頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談等では聞き取りを行い、入居後は家族と電話連絡を中心に要望や不安がないか確認する事により信頼関係の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談等での情報を基にチームで速やかに検討を行い、利用者や家族が必要としている支援についての見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、一緒に何かをしていく中で支え合える関係性を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに家族とともに支え合える機会がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由に行っており、関係維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的な関わりの中で利用者様同士の関係性の把握に努め良好な関係が築けるよう環境整備を行ったり、きっかけ作りを行い、ご本人達で解決できることは介入しない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前年度同様、関わる事が困難になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中で利用者様本人の言動や様子等から推測し、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談での聞き取りや入居後の日常生活での本人や家族とのやり取りの中でこれまでの生活習慣などについて確認を行い、職員で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式やアセスメント等を活用し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でケアについて話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに記入し、情報共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の視点を持ち、グループホームとしての特性等も十分に理解した中で支援の検討等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度同様コロナウイルスの影響により行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態に合わせて家族に確認を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護で変化があった時は相談する事で適切な看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、電話で情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療機関とカンファレンスを行い、共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を行ったり緊急時マニュアルを作成し身につける。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、対応出来るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に配慮した対応や言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を伝えられるよう声掛けなどに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が服を選んだり、美容室へ行ったり、希望に合った支援をしている。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の心身の状態を極め、日々の生活の中で意向や思い、活動に対する意欲や習慣等確認し、家事全般の参加を自ら行えるような環境を整備し促している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランス、水分量を一人一人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて仕上げ磨きや、歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の体質やその時の体調等にも合わせ、医療関係者とも連携を図りながら、生活面、医療面での支援を行う事により便秘の予防につなげている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の意向や体調に合わせて、いつでも入浴できるように準備している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて休憩できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも服薬内容を確認出来るよう利用者個々の処方箋をファイルしており、体調変化に対して職員全員が対応できるように準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせた支援している。		

グループホーム アウル登別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やドライブ、散歩をしたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さや意義は理解している、一度買い物にでかけた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいときはその都度支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度の調整や換気をしたり、季節のものを飾ったりして快適に過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、その目的等も十分に家族に説明した上で、使い慣れた物をお持ちいただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には表札、トイレには案内プレートを設置、夜間はさり気なくトイレに照明があたるような工夫をし、自立に繋がるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームアウル登別館

作成日：令和 6年 2月 20日

市町村受理日：令和 6年 2月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年6回会議を開催していたが、現在は議事録を参加出来なかった家族に送付していなかった事が課題である。	年6回会議を開催し、開催ごとに参加出来なかったご家族様に議事録を送付する事を目標とする。	会議に参加できなかった、ご家族様、市役所、包括支援センター、町内会の会長、民生委員など把握し、会議の議事録を毎月発行している施設の広報と一緒に送付する。	1年
2	6	身体拘束を行っておらず、身体拘束委員会としての記録の整備が十分ではなかった事が課題である。	身体拘束委員会としての議事録を整備すること、議事録には身体拘束やグレーゾーンの有無、現状の課題や対応状況、今後の方針など必要に応じて具体的に示し、職員間で共有を目標とする。	身体拘束委員会の活動の年間スケジュールを作成する。身体拘束、グレーゾーンの有無、現状の課題や対応状況を話し合う機会を設ける。開催した委員会、会議については議事録の担当者を明確にし、議事録が作成出来ているか管理者が確認を行う。作成された議事録の回覧を行う。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。